

分かる！快感！

Z会ナビ

算数

理科

社会

お題

江戸時代の農書が果たした
役割とは？

(一橋大学 2003年 日本史)



次の史料を読んで以下の問いに答えよ。

村に住んで40年、農業を営む中でさまざまなことを試み、経験を積んできました。そして畿内および諸州を巡り歩き、経験豊富な農家に学び、中国の農業関係の書籍を見て、日本の風土でも活用できる内容を洗い出し、農業を論じる書を著すことにしました。(中略)この書はこれまで日本にはなかったものです。同じような書がこれから出てきた際にも、この書は日本最初の農業に関する書というべきでしょう。(貝原益軒筆「叙」※)

農業を営む者は、つねに暦を見て、節気の変り目を調べて、風雨の変化に注意しなければなりません。(中略)天気についての注意をおろそかにすると、ひと時の風雨によって、数か月の苦勞がむだになってしまうこともあるのです。(巻之一)

木綿はもともとは中国にもありませんでしたが、外国からもたらされて以降、作られるようになり、日本にも100年ほど前に種がもたらされて広まりました。生産に向かない地域はありませんが、肥沃な土地で生産すれば、たいへん利益が出ます。よって、穀物をさしおいて木綿を多く作る地方もあります。(巻之六)

※「叙」は「序」と同じ。

問 この史料はすべて下線部「この書」から引用したものである。「この書」は日本で初めて刊行された農書であるが、江戸時代の社会において農書が果たした役割を説明しなさい。

収入源を確保せよ！

江戸時代までの日本の政府(朝廷や幕府)にとって、大きな収入源は米などの農作物や、布などの加工品でした。収入源を確保するためにも、農作物の収穫量を増やすこと、多くの税を



イラスト・瑞木匠

農業技術発展のきっかけに

納めさせることは、つねに重要な課題でした。江戸幕府は、用水路を整備したり、海や沼などを干拓して農地にしたりして、新しい田畑の開拓(新田開発)を積極的に進めました。今でも「新田」という地名が残っているところがありますが、江戸時代までに開拓された田畑が由来であることが多いです。

しかし、日本列島の面積は決まっていますので、新田開発にも限りがあります。すると、今度は限られた面積で収穫量を増やす必要が出てきます。新田開発が限界に近づくとともに、大きな戦乱がなく、安定した江戸時代には、農業技術が大きく発展しました。そして、先進的な農業技術は農書を通じて各地に広められたのです。

最新の情報を入手せよ！

今回紹介した史料は、江戸幕府五代将軍徳川綱吉のころに著された「農業全書」という書物です。「叙(序)」にあるように、作者の農業経験をもとに、中国の書籍の内容も加えながら、日本の気候・風土に合う内容で書かれた、日本で最初の農書です。それまでは伝聞や外国の書物でしか知ることができなかった農業技術について、書物によって全国に日本の気候・風土にあった最新情報が届けられるということは、今までにない新しいことでした。

次の段落「巻之一」には、農業における暦の重要性が書かれています。明治時代に現在の太陽暦に切り替えられるまで、日本では太陰太陽暦が使

われていました。太陰太陽暦とは、月の動きに太陽の動きを取り入れて修正したものです。江戸時代の初めに使用されていた中国の暦は、800年間もの長きにわたり使い続けていたことで、実際の季節とのずれが非常に大きくなってしまっていました。このことは農業の発展にとっても大きな妨げでしたが、「農業全書」が刊行されたのと同じころに、ずれをなくするための修正が行われました。

次の「巻之六」には、木綿の生産について書かれています。農業技術が上がったことで、田畑では年貢として納める米以外に、商品として販売することができる作物の生産が進みました。また、それまでは麻が中心だった民衆の衣服が、木綿の生産が進んだことで綿に切り替わるなど、生活も大きく変化していったのです。

(Z会・河原井彩)

！
今回の
教訓

農書が刊行されたことで、江戸時代の農業は大きく発展しました。江戸時代の書物は、多くの人に情報を届けられる、重要な情報伝達ツールだったのです。



河原井彩さん 2007年に入社。大学受験用の日本史、政治・経済の教材編集を経て、現在は中学生・高校生向けの社会科教材を担当。新潟県生まれの埼玉県育ち。